

2020年度 第3回 阪大本番レベル模試 国語（人外法経）採点基準

1 文（文章）で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。
b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。その場合それぞれの採点基準の中に明記されていません。ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されていません。

c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点（独立採点）すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d 解答通りという条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B a 答案中に大きな誤読と判定される内容（語句）などがある場合は、その内容（語句）を減点要素として示されている場合もあります。
b 加点要素でも減点要素でもない部分もありえます。その部分は加点も減点もしません。

C 次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。
a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。

c 文末の句点の脱落。

*字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。

たとえば「：とはどういうことか？」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。

また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

*ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。

また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。

c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。

d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 古文あるいは漢文の訳を記述する設問の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

■採点の原則

- ① 全ての答案について各要素単独採点とするが、答案が全く日本語の文（章）の体をなしていないと判断される場合は、要素の有無に関係なく0点とする。
- ② 文脈のねじれがある、また主述の対応に問題があると判断される場合は、要素ごとに加点した上で、全体から2点減点する。
- ③ 漢字の誤り、送り仮名の誤り、句点の抜けについては、一つごとに1点減点する。

□ (50点)

問一 解答通り

問二

■形式上の不備

- ・文末表現は要素D参照

基準 配点8点

■模範解答例

A 人間は常に明確な意志を前提に行動するという通念を疑い、行動する当事者は各瞬間には意志など意識して

ならず、それは事後的に発見されるものではないかと考えてみることに。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…八十字以内 三十九字以下のものは全体不可（0点）

■要素A「人間は常に明確な意志を前提に行動するという通念を疑い」…3点

- ・「人間は明確な意志をもって行動する」ということへの懐疑が答案に示されていれば可。
- ・「行動」あるいはそれと同等の説明語句を書く場合は2点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「行動する当事者は各瞬間には意志など意識してならず」…3点

- ・「行動中の人間は意志を意識していない」という意味が明確に読み取れれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「それ（＝意志）は事後的に発見されるのではないかと考えてみる」…2点

- ・「意志は行動の後で意識される」ということが示されていれば可。
- ・「考えてみる」は「疑う・問い直す」など、ほぼ同内容であれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「…こと」という文末形式が原則。但し、設問の求める内容説明の形になっていると判断できれば許容してよい。不適切と判断される場合は1点減点。

■形式上の不備

- ・文末表現は要素F参照

基準 配点1点

■模範解答例。

A プラグマティストは、理念を世界に適應しそれを変革するための 実際の手段とする点では実用主義者とい
B えるが、理念を選択し追究する権利を認め、人間と世界を結ぶ媒介とする点では単なる実用主義者とは言え
D E ないから。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…百字以内 四十九字以下のものは全体不可(0点)

*波線部のように、いかなる点で実用主義者と言え、いかなる点で言えないのかの対比が、答案に明確に示されているか否かをよく吟味する。波線部のような表現がなくても、対比の説明がなされていると判断できれば問題はない。

■要素A「プラグマティストは」…2点

- ・主語・主題提示。「プラグマティズム」でも可。

■要素B「理念を世界に適應しそれを変革するための」…4点

- ・「適應」「変革」のいずれかを欠く場合は3点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は2点。

■要素C「実際の手段とする」…2点

■要素D「理念を選択し追究する権利を認め」…3点

- ・「選択」「追究」のいずれかを欠く場合は2点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E「人間と世界を結ぶ媒介とする」…3点

- ・「結ぶ媒介」はほぼ同意の説明があれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素F 文末形式は「…ので・から」が原則であるが、設問の求める理由説明の形になっていると判断できれば許容してよい。不適切と判断される場合は1点減点。

■形式上の不備

- ・文末表現は要素I参照

基準 配点18点

■模範解答例

A
偶然的に行動する人間の多様な経験の繰り返しだがパターン化されて、人々の間に定着することで形成される
C
習慣は、最終的に理念的な規範に収束することにより世界を安定させ、さらに習慣の再生産が社会の不確実
D
性を低下させ、その変化が社会の固定化を防ぎ、新たな習慣の創造が社会を更新し、安定した社会の維持が
F
可能になる。
G
H

■採点方法…各要素単独採点

■字数…百五十字以内 七十四字以下のものは全体不可(0点)

■要素A「偶然的に行動する人間の多様な経験の繰り返しだがパターン化されて」…3点

- ・「偶然(的)」「(多様な)経験」「パターン化」を各1点として加点するのが目安。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「人々の間に定着することで形成される習慣」…1点

- ・「定着」あるいはそれと同等の語句があれば可。なければ加点しない。

■要素C「最終的に理念的な規範に収束する」…3点

- ・「最終的に」はなくても可。「収束」もほぼ同等のごくなら許容してよい。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「世界を安定させ」…2点

*DとHのニュアンスの違いに留意。Dは「安定」をもたらすことであり、Hは「安定」を存続させることである。

■要素E「習慣の再生産が社会の不確実性を低下させ」…3点

- ・「再生産」と同等の説明語句を欠く場合は2点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素F「その(=習慣の)変化が社会の固定化を防ぎ」…2点

- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素G「新たな習慣の創造が社会を更新し」…2点

- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素H「安定した社会の維持が可能になる」…2点

- ・ここはDとの違いに留意。「維持」あるいはそれとほぼ同義の説明語句がなければ加点しない。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素I 答案が「『習慣』の持つ意義」を説明する形式になっていると判断できれば広く許容してよい。
不適切と判断される場合は1点減点。

問一 解答通り

問二

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素F参照

基準 配点10点

■模範解答例

A 一切の事物の实在認識が成立する根拠は自己の心のみとするのが強い独我論であるのに対して、陽明は他
B
者による实在認識の成立根拠となる 他者の心の存在も許容しているから。
C
D E

■採点方法…各要素単独採点

■字数…八十字以内 三十九字以下のものは全体不可(0点)

- 要素A「一切の事物の实在認識が成立する根拠」…3点
 - ・「…が成立する」はなくても可。
 - ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

- 要素B「自己の心のみとするのが強い独我論である」…2点
 - ・「強い独我論」は「自己の心」の存在しか認めないということが分かる説明なら許容してよい。
 - ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「陽明は」…1点

- 要素D「他者による实在認識の成立根拠となる」…2点
 - ・ほぼAの繰り返し返しであるが、他者も自己と同様に实在を認識しているということが分かる説明なら許容してよい。
 - ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

- 要素E「他者の心の存在も認めている」…2点
 - ・単に「他者の存在」としている場合は1点。

- 要素F 文末形式は「…ので…から」が原則であるが、設問の求める理由説明の形になっていると判断できれば許容してよい。不適切と判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素F参照

基準 配点15点

■模範解答例

A 模範解答例。 B 外界の事物に内在する意味の自己の心による認識を目指す朱子学では、意味の根拠が事物と自己の心の両方に属することになって、事物に意味を付与する自己の心を世界理解の基盤に据えて、その心と向き合いつつより高い境地を目指す 自知には至りえないということ。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…百二十字以内 五十九字以下のものは全体不可(0点)

- 要素A「外界の事物に内在する意味の自己の心による認識を目指す朱子学」…4点
 - ・事物に意味が内在し、人間の心がそれを捉えるというニュアンスが読み取れば可。
 - ・「事物に内在する意味」・「(自己の)心による認識」を各2点とするのが目安。
 - ・説明が曖昧であると判断される場合は2点。

- 要素B「意味の根拠が事物と自己の心の両方に属することになって」…3点
 - ・Aに関するまとめの説明。ほぼ同意と判断できれば広く許容してよい。
 - ・「意味の根拠」を「理」としている場合は2点。
 - ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

- 要素C「事物に意味を付与する自己の心を世界理解の基盤に据えて」…3点
 - ・「自己の心」が「事物に意味を付与する」というニュアンスが読み取れば2点加点。
 - ・「世界理解の基盤」とほぼ同意の説明があれば1点加点。
 - ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

- 要素D「その心と向き合いつつより高い境地を目指す」…3点
 - ・哲学的には自我と向き合う自己ということ。そのニュアンスが読み取れば2点加点。
 - ・「より高い境地を目指す」とほぼ同ニュアンスの説明があれば1点加点。
 - ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

- 要素E「自知には至りえない」…2点
 - ・朱子学的な認識論では「自知」に至りえないという陽明の批判の核心の説明。
 - ・ほぼこのままの説明のみ許容。

- 要素F「…こと」という文末形式が原則。但し、設問の求める内容説明の形になっていると判断できれば許容してよい。不適切と判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素F参照

基準 配点15点

■模範解答例

A

無善無悪の心から生じる思いには善悪の区別は現れないとするのが王畿、B 思いには善悪が現れるから実践的

D

B

E

C

努力は欠かせないとするのが錢徳洪である。天性の才知を持つ人には前者が、才知の劣る人には後者が意味を持つという形で両者は同時に成立するということ。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…百二十字以内 五十九字以下のものは全体不可(0点)

■要素A「無善無悪の心から生じる思いには善悪の区別は現れないとするのが王畿」…5点

- ・人間の心は本来「無善無悪」であるという前提に3点。この説明は答案のどこにあってもよい。
- ・「思いには善悪の区別は現れないとするのが王畿」という説明に2点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は2点。

■要素B「思いには善悪が現れる」…2点

- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「実践的努力は欠かせないとするのが錢徳洪」…2点

- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

*B・Cは錢徳洪の考え方の説明。

*「心」と「思い」の使い分けも厳密に吟味する。ズレている場合は1点減点。

■要素D「天性の才知を持つ人には前者」…3点

■要素E「才知の劣る人には後者」…3点

*D・Eのいずれかを提示した後で、「そうでない人(者)」としていても可。

*説明の順序は問わないが、AとD、B・CとEの対応に注意。その対応がズレている場合はD・Eに
加点しない

■要素F「…こと」という文末形式が原則。但し、設問の求める内容説明の形になっていると判断できれば許容してよい。不適切と判断される場合は1点減点。

★2020年度 阪大(人外法経) 本番レベル模試 第3回

二 (古文『九州の道の記』) 採点基準 ※50点満点

問一(一) 和歌(X)について、使われている掛詞について説明しなさい。 【2点】

〔該当和歌〕 夢にだに都のつてはさもあらで波の音のみきくの高浜

〔模範解答〕 A2「きく」に「菊」と「聞く」が掛けられている。

ポイント

A【2点】「きく」に「菊」と「聞く」が掛けられている。

※「きく」に「菊」の意があるという説明があれば【1点】。

※「きく」に「聞く」の意があるという説明があれば【1点】。

※「きく」(仮名)の指摘がなくても、「菊」と「聞く」が掛詞」という説明があれば【2点】。

問一(2) 和歌(X)について、歌の大意を説明しなさい。【4点】

※各部分があていば、その部分の点は与えることとします。

〔該当和歌〕 A2夢にだに都のつてはさもあらで B2波の音のみきくの高浜

〔模範解答〕 A2都からの連絡を耳にすることはなく、 B2聞こえるのは波の音だけである。

〔ポイント〕

A【2点】都からの連絡を耳にすることはなく、

※「都からの連絡がない・都からの連絡を聞かない」の意があればよい。

※「夢でさえ・夢でも」等の有無は不問。

B【2点】聞こえるのは波の音だけである。

※「波の音だけを聞く」の意があればよい。

※「菊の高浜で・高浜で」の有無は不問。

※「だけ」がない「波の音を聞く」は【1点】。

問二 (a) 傍線部について、文脈に沿うように、適宜言葉を補って現代語訳しなさい。【4点】

※各部分の訳があていければ、その部分の点は与えることができます。

【該当傍線部】 A2 神さび申すもB2 おろかにぞ侍る。

【模範解答】 A2 神々しいなどと申してもB2 言い足りないほどでございます

【ポイント】

A【2点】神さび申すも ↓ 神々しいなどと申しても

※「神々しい」は「おごそかだ・古めかしい」等でもよい。これができていない場合は×。

※「など」の有無は不問。

※「と申しても」は「と言いましても」のような丁寧表現でもよい。

※敬語がない」と言っても・という表現では・という言葉では【1点】。

B【2点】おろかにぞ侍る。 ↓ 言い足りないほどでございます

※「言い足りない・言い尽くせない・表現(言葉)が十分ではない」+丁寧(～ます・～です・～ございます)で【2点】。

※「言う・表現・言葉」が明らかでない「十分ではない・いいかげんだ・おろそかだ」等はマイナス点。

例 十分ではありません・いいかげんです【1点】

※丁寧(～ます・～です・～ございます)がない場合はマイナス点。

例 言い足りない・表現が十分でない【1点】

※「言う・表現・言葉」が明らかでない「十分ではない・いいかげんだ・おろそかだ」等になっていて、丁寧もない場合は×。

例 十分でない・いいかげんだ【0点】

問二 (b) 傍線部について、文脈に沿うように、適宜言葉を補って現代語訳しなさい。

【4点】

※各部分の訳があていければ、その部分の点は与えることとします。指示がある場合は指示に従って下さい。

〔該当傍線部〕

AーことごとしくBー言はれたるはCーいづくぞ、Dー尋ね見ばや

〔模範解答〕

Aー仰々しくBー言われているのはCーどこか、Dー尋ねてみたい

〔ポイント〕

A【一点】ことごとしく ↓ 仰々しく

※「大袈裟に・大仰に」等でもよい。

B【一点】言はれたるは ↓ 言われているのは

※AがO点の場合は得点できない。ただし、誤字等でO点となっている場合は得点できる。

※「言われるのは・言われる場所は」等でもよい。

C【一点】いづくぞ、 ↓ どこか、

※「どこののか・どこだろうか・どこだろう」等でもよい。

D【一点】尋ね見ばや ↓ 尋ねてみたい

※「尋ねたい・聞いてみたい・問いたい・質問したい」等、また「訪ねてみたい・訪ねたい・訪れたい・行ってみたい。行きたい」等でもよい。

問二 (c) 傍線部について、文脈に沿うように、適宜言葉を補って現代語訳しなさい。 【4点】

※各部分の訳があていければ、その部分の点は与えることとします。

〔該当傍線部〕 Aーさらば Bーよきほどなり。 C2 拝み奉らむ

〔模範解答〕 Aーそれならば Bーちようどよい距離である。 C2 参拝し申し上げよう

〔ポイント〕

A 【1点】さらば ↓ それならば

※「それなら・そうしたら」でもよい。

B 【1点】よきほどなり。 ↓ ちようどよい距離である。

※「距離」であることが明らかでない場合は×。

例 よい程度である・よい時分である・よい機会である 【0点】

※「ちようどよい」は「よい・適当な・好都合な・適度な・さしつかえない」等でもよしとする。

C 【2点】 拝み奉らむ ↓ 参拝し申し上げよう

※「拝む」＋謙譲（く）申し上げる・おくする（く）＋意志（く）しよう・くしたい（く）が全部あって 【2点】。

または、「参拝する・参詣する・参る・参上する」＋意志（く）しよう・くしたい（く）で 【2点】。

※謙譲がない「拝もう・行こう」は 【1点】。

※意志がない「拝み申し上げる・参拝する」等は 【1点】。

※「会う・拝謁する」等の意になっている場合は×。

問三(ア) 傍線部は、どのようなことを述べているのか、わかりやすく説明しなさい。【8点】

「該当傍線部」 B 4所のありさまにけおされて、A 2本意C 2なくやみにけり。

「模範解答」 A 2 笹崎宮の松について自分で歌を詠もうと思っていたが、B 4 その神々しい雰囲気に圧倒されてしまい、C 2 結局詠むことができないままになってしまったということ。

「ポイント」

A【2点】 笹崎宮の松について自分で歌を詠もうと思っていたが、

※Cが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点となっている場合は得点できる。

※「歌を詠もうとした・歌を詠みたかった」の意があれば【1点】。

※右の意がある上で、その歌が「笹崎宮の松」についての歌であることが分かれば【2点】。

「笹崎宮の松」についての歌であることは解答全体から分かればよい。

B【4点】 その神々しい雰囲気に圧倒されてしまい、

※「神々しい」は「おごそかだ・古めかしい」でもよい。これに相当する表現がない場合は【3点】。

※「圧倒され」は漢字が当たっていれば「気圧され」でもよい。

※Bだけでも得点できる。

C【2点】 結局詠むことができないままになってしまったということ。

※「詠めなかった・詠むのをやめた」の意があればよい。「詠む」の意は解答全体から分かればよい。

※Cだけでも得点できる。

問三(イ) 傍線部は、どのようなことを述べているのか、わかりやすく説明しなさい。【8点】

〔該当傍線部〕 まことに唐土舟寄せつべき浦とも覚えず。

〔模範解答〕 A2『伊勢物語』で「唐土舟が寄港する」と詠まれているB4袖の湊は、C2実際には、日常的にほとんど水もなく、(B)大きな舟を寄せることができるような海岸であるとは、とても思われないうこと。

〔ポイント〕

A【2点】『伊勢物語』で「唐土舟が寄港する」と詠まれている

※Bが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点となっている場合は得点できる。

※「唐土舟(唐土舟・唐の舟・中国の舟)が寄港する」ことが『伊勢物語』に書かれていることが説明されればよい。

「唐土舟(唐土舟・唐の舟・中国の舟)が寄港する」は解答全体から分かれればよい。

これがB以降にある場合は、Aは『伊勢物語』にあるように「等でもよい」。

B【4点】袖の湊は、大きな舟を寄せることができるような海岸であるとは、とても思われないうこと。

※「袖の湊は、大きな舟(唐土舟・唐の舟・中国の舟)を寄せられるとは思われない」の意があれば【4点】。

※「袖の湊は、」がない場合はマイナス2点。

※舟の形容「大きな・唐土・唐の・中国の」等がない場合はマイナス1点。

※「思われないう」は「感じられない・見えない」でもよい。これに相当する表現がない場合はマイナス1点。

※Bだけでも得点できる。

C【2点】実際には、日常的にほとんど水もなく、

※Bが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点となっている場合は得点できる。

※「実際に・実際には」の意があれば【1点】。

※「水がない」の意があれば【1点】。

問四 傍線部について、何が「優には侍れ」なのか、説明しなさい。【8点】

「該当傍線部」 優には侍れ。

「模範解答」 A 2伊勢が、「たえず流るる」と詠んでいるB 3「思ひ川」が、実際に、干上がることなく、今も流れ続けており、C 3伊勢が歌に詠んだことが真実であったと思われること。

「ポイント」

A【2点】伊勢が、「たえず流るる」と詠んでいる

※BもCも0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点となっている場合は得点できる。

※伊勢が「思ひ川」を歌に詠んでいることが解答全体から分かれば【1点】。

※右の意がある上で、「たえず流るる（絶えず流れる）」（古文のままでも現代文でもよい）と詠んでいることが明らかになっていれば【2点】。

※「伊勢」が「伊勢物語」となっている場合はマイナス1点。

B【3点】「思ひ川」が、実際に、干上がることなく、今も流れ続けており、

※「思ひ川が干上がっていない・思ひ川の水はなくなっていない」の意があれば【1点】。

※「思ひ川が流れ続けている」の意があれば【1点】。

※右の二つの内、一つ以上があり、その上で「実際」、または「今も」の意があれば【1点】。

※Bだけでも得点できる。

C【3点】伊勢が歌に詠んだことが真実であったと思われること。

※「歌に詠まれたことが真実だった・歌の言葉が本当だった」の意があれば【3点】。

※「真実・本当」の意がないが「歌のとおりだ」の意がある場合は【2点】。

※Cだけでも得点できる。

問五 和歌(Y)を、「昔」がどのような「昔」であるのかわかるようにして、現代語訳しなさい。【8点】

※各部分の訳があていければ、その部分の点は与えることとします。指示がある場合は指示に従って下さい。

【該当和歌】 A3昔をB2や忘れはてけんC1ほととぎすD2聞けど名のらぬ朝倉の山

【模範解答】 A3古代の神楽歌に「名のりをしつ」と歌われている昔のことをB2忘れ果ててしまったのだろうか、C1ほととぎすは。D2聞いていても声を上げることもない朝倉の山であるよ。

【ポイント】

A【3点】昔を ↓ 古代の神楽歌に「名のりをしつ」と歌われている昔のことを

※「古代に」の有無は不問。

※「神楽歌に歌われた昔を・かつて神楽歌に歌われたのを」の意があれば【1点】。

※『名のりをしつ』と歌われた昔を・かつて『名のりをしつ』と歌われたのを「の意があれば【2点】。

※「昔を・昔の事を」はX。

B【2点】や忘れはてけん ↓ 忘れ果ててしまったのだろうか、

※「忘れる」+「果てる・てしまう」+過去推量(たのたろう) +疑問(か)が全てあって【2点】。

※「忘れる」がない場合はX。

※「果てる・てしまう」の有無は不問。

※過去推量、疑問のいずれかがない場合は、一つない毎にマイナス。

例 忘れたのか・忘れてしまったのか・忘れ果てたのか

忘れたのだろうか・忘れてしまったのだろうか・忘れ果てたのだろうか

忘れた・忘れてしまった・忘れ果てた

【1点】過去推量がない

【1点】疑問がない

【0点】疑問も過去推量もない

C【1点】ほととぎす ↓ ほととぎすは。

※BもDも0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点となっている場合は得点できる。

※「ほととぎすよ」「てもよく、」ほととぎすは、「」のようにDに続くかたちでもよい。

D【2点】聞けど名のらぬ朝倉の山 ↓ 聞いていても声を上げることもない朝倉の山であるよ。

※「聞いていても」は「聞けれども・聞いても・耳を傾けても」等でもよい。これに相当する表現がない場合はマイナス。

※「声を上げることもない」は「鳴かない」「てもよい。上記の表現がなく「名のらない」しかない場合はマイナス。

※「朝倉の山であるよ」は「朝倉山だなあ・朝倉の山だよ」等でもよく、「朝倉山では」等でもよい。これに相当する表現がない場合はマイナス。